

栃木県議会議員

平木ちさこ 活動レポート

元気ネット

発行
平木ちさこ
事務所
〒321-1274 栃木県日光市土沢1962
TEL 0288-26-6739
FAX 0288-26-6759
Eメール hiraki-chisako@nifty.com

ホームページ <http://hirakichisako.com> (奇数月末日更新)

〔もっと生徒が欲しい!〕

県立高校の適正規模を1学年4~8学級としている県は、全国で栃木県だけだ。

適正規模に満たなくなった足尾高校と日光高校が統合し、日光明峰高校が誕生して10年が経つ。県の諮問機関である県立高校再編に関する検討会議が「今後の望ましい県立高校の在り方について一全日制高校の規模と配置の適正化」として以下のように提言した。(抜粋)

*

生徒同士の切磋琢磨の機会や、各教科の教員を適正に配置するために(基準では校長・教頭の他に4学級→教員29人、3学級→同23人)、また、部活動の部員を確保するという面では1学年4~8学級が適正規模である。統合により学校規模の維持に努めて行くことが望ましいが、一部の周辺地域では特例として、適正規模未満の高校(特例校)も認めることが望ましい。また、特例を認める高校については、不公平感が生じることのないよう明確な基準を定める必要がある。特例校の下限は3学級とすべきとの意見が多数を占めたが、特色化と併せて総合的に検討することが望ましい。

また、委員からは、「人口減少が著しい地域などでは、その地域の将来を支える人材の育成等、高校が地域振興に果たす役割への期待が高まっていることから、そうした期待に配慮する必要もある」。

一方で、「高校は地域コミュニティの核だという考えもあるが、あくまでそこで学ぶ生徒にとってどちらが良いのかを中心に考えていったほうが良いのではないか」との意見も上がった。

*

日光明峰高校は県内で最も定員割れが進んでおり、平成28年度の入学生は定員160人に対して81人、その内の58人が日光市内に住んでいる。27年度の入学生は85人だった。

例えば、高校に特色を持たせて伝統工芸科や観光科などの専門科の新設が考えられる。先行している那須高校にはリゾート観光科40人1クラスが設置されているが、定員割れし



日光明峰高校

ており、卒業後の就職も観光関係は少ないという。それをまたひとつ県内に作っても果たしてどうか、との見方もある。

また、存続させるために努力をしている自治体がある。

那須烏山市では、烏山高校に通学する生徒の交通費を1人5,000円を超えた分の全てを補助している。ちなみに、日光明峰高校の日光駅から学校までのバスの定期券は、1ヶ月10,800円で、現在は170人が利用している。坂道のため自転車は禁止、徒歩50分はかかる距離だ。

日光市が半額補助を出すとすると年間1,100万円。これを高いとみるか安いとみるか。もちろん、ならば日光から宇都宮に通う生徒たちの交通費はどうなんだ?との不公平感も否めない。が、問題は存続が危ぶまれる地元の高校をどうするのか!だ。

*

同校の卒業生の就職と進学の割合は約半々。その就職先は7割が日光市内だという。そうすると、日光に若者を引き留めるという観点から地方再生の一環とみても良いし、そこは自治体独自で采配出来るうま味ではないか。

福島県の只見、南会津、川口の3校では山村留学として全国から生徒を募集し、身元引受人を町が探し、町の寮に入るところまでサポートしている。

県教育委員会によると、日光明峰高校は29年度までは現行通り4クラスで生徒を募集するが、30年度からの募集についてはこれから検討してゆくという。同校には今年からアイスホッケーの部活を目指して東京や兵庫から5人の生徒が単身で来られるようになったが、その内2人は鹿沼市のホッケーに熱心な方の家から通っているという。

学校にとっては下宿探しが一苦勞。これらも含めて日光明峰高校の生徒集め=存続は、校長・教頭先生たちの努力だけに任せずに、市も市民もそれぞれの角度から知恵を絞り、力を合わせて行かねばならない時期に来ている。

〔私立高校の入学金の補助を!〕

6月、栃木県私立学校職員組合連合から県内の私立高校生の授業料減免制度の拡充の要請が知事宛に出された。現在、県内の高校生の約3割が私立高校に通っている。

しかし、国の修学支援金制度と県の授業料減免制度は授業料のみが対象となっており、入学時納付金や、平均年額24万円を超える施設整備費等の学納金は減免とならず、県内では今春も入学金が用意できずに入学を辞退した生徒がいた。

入学金補助制度は、関東では5県で実施している。

そこで栃木県でも入学金補助制度の創設を求めたいという主旨のものだ。

*

また、「周辺の県立高校の定員数を増やせば、わざわざ宇都宮の私立高校まで通わなくても地元の県立高校に通えるではないか」という県北の保護者の声もある。

しかし、国が定める標準定数法には「都道府県は高等学校の教育の普及及び機会均等を図るため、その区域内の公立高等学校の配置及び規模の適正に務めなければならない。この場合において、都道府県はその区域内の私立の高等学校並びに公立及び私立の中等教育学校の配置状況を十分に配慮しなければならない」と、ある。

〔もっと先生が欲しい!〕

栃木県学校管理職員協議会からは県会議長宛に要望書が出された。

その中のひとつに、教員の加配の要望があった。

裏面に続く

小学校でも、生徒の下校時間は週に2日は15時以降、3日は16時以降になり、担任を持つ先生は1日平均5.5時限の授業を持っている。

普段も19時前には帰れず、土日は自由に出勤して報告書などを作っている先生もいるという。

*

コンピュータを使った授業をしたくてもその準備に時間がかかるので、やはり黒板とチョークを使った授業になりがち。教材研究の時間が欲しいというのが切実な願いだという。

現場として欲しいのは加配の教員。

もちろんきめ細かな指導のためにも35人以下の学級の拡大を望んでいるが、子どもたちの数が減り自然に35人学級になっている傾向がある。

とにかく現場は先生の数が多いいほど良い、と現場では教員不足を切に訴えている。

[小水力発電所] 日光市に3ヶ所設置へ

県 企業局では現在、以下の3地区に小水力発電を計画している。

3つ併せて日光市の全世帯の10分の1弱の発電量ではあるが、日光市ならではの急峻な地の利を生かしての発電に期待している。

計画地区	発電量	対象世帯数	県工費負担	完成予定(平成)
1 五十里ダム	1,100kw	2,300世帯	約10億円強	31年3月
2 川治温泉郷	40kw	90世帯	約1.5億円	30年3月
3 小百川上流(瀬尾)	200kw	370世帯	約7.2億円	31年3月

県 内の保育園の待機児童数は平成28年4月時点で155人と発表された。

一方で、待機児童に参入しない数は769人とある。その内訳は、「特定の保育園等のみ希望している者665人」。育児休業中の者35人。求職活動を休止している者69人とある。

下の子の育休中は上の子は保育園を利用出来ない、ということが問題になって久しいが、「特定の保育園のみ希望している者」という数が大きい。

兄 弟が同じ保育園を希望しても入れない例、厚労省では、自治体が空きのある保育園を保護者に示し、そこが送迎に30分以内の場所にあるにもかかわらず断るともう待機児童としてカウントしないのだ。

待機児童の教え方 おかしいよ!



しかし岡山市では希望を洗い出して調査した結果、市の今年4月時点の待機児童は729人で、2015年4月時点の134人に比べ大幅に増えた。基準を見直して「特定の保育園等を希望」する人のうち、これまで対象にしていなかった「市が第3希望まで利用調整したが入園できなかった人」をも待機児童ととらえることにしたのが影響した。

これまでの判断基準に基づいて14年4月時点が0人。15

年4月は親が求職中の児童をも含める基準に変えたことで134人、そして今年は729人へ。何と5倍以上に膨らんだ。

自宅から30分未満で利用可能保育園がある場合には待機児童から外してきたが、現実的には職場から離れているなど難しい場合が多かったことから基準を見直したのだ。

岡山市は対策として私立保育園の整備や認定こども園の整備、小規模保育の拡充などで800人以上の定員を確保し、かつ保育士の確保のため、事業者に適切な処遇改善を求めるなどの取り組みを進めるという。

働 くお母さん、お父さんが毎朝の忙しい時間に少しでも家と会社の間にある保育園への入園を希望し、かつ兄弟は同じ保育園に入れたいと思うのは極めて当たり前のことだ。そんな意を組まずに、子育て支援だ、待機児童ゼロだの言っても絵に描いた餅になってしまう。

毎週月曜日の朝に大きなお昼寝用布団をかついで子どもたちの手を引いて走る働く親たち、彼らを本気で応援したいと思うなら、もっと誠意を持ってその事情に寄り添うべきだと、私は思う。

10月・11月の催し

元気会 毎月第1土曜日 10時~11時30分

日時▶ 10月1日(土) 11月5日(土)

●会場: 元気ネット事務所(日光市土沢1962)

※会費、申し込みは不要

女性の茶話会 毎月第1水曜日 19時~21時

日時▶ 10月5日(水) 11月2日(水)

●会場: 元気ネット事務所(日光市土沢1962)

●参加費: 300円(軽食付き)

●申込み: ☎0288-26-6739 平木事務所へ



秋だサンマだ パーティーだ!

※初めての方も奮ってご参加下さい。

《恒例サンマパーティー!》

日時▶ 11月3日(木) 11時~ ※雨天の場合 11月5日(土)

●会場: 元気ネット事務所前庭(日光市土沢1962)

●会費: 一人1,000円

●申込み: ☎0288-26-6739 平木事務所へ

※平木ちさこは、HPオフィシャルサイトまたはFBに、「今日の活動」を毎日アップしています。どうぞご覧ください。(平木ちさこで検索してください)

県政について、みなさんのご意見をお寄せください。



[Eメール] hiraki-chisako@nifty.com

※平木ちさこの「元気ネット」ホームページは奇数月末日更新です。

※平木ちさこオフィシャルサイト <http://hirakichisako.com>

平木ちさこ 検索

